

05 県立文化施設等の発信力強化

県立文化施設等は、県民に最も身近な文化拠点のひとつです。

多くの県民に親しまれ、地域のなかで中核的な役割を果たすため、それぞれの施設が専門性を活かしながら魅力的な展示や教育普及イベント等を企画し、情報発信を強化します。

近代美術館

日本と西洋の近・現代美術を中心に、幅広い美術品を収蔵・展示しています。優れた美術の鑑賞機会を提供する企画展や、若い作家のための公募展の開催、作品解説・講演会、子ども向けワークショップなどの教育普及活動の充実を図るとともに、各種メディアを活用して、情報を積極的に発信していきます。



館林美術館

「自然と人間」をテーマに作品を収集・展示しており、平成33年度は、開館20周年記念企画展を実施します。小学生木版画展や高校生による夏休み宿題相談室の開催など学校教育との連携のほか、大人から子どもまで幅広い年代層に向けた講演会やワークショップなどの教育普及事業の充実に取り組んでいきます。



歴史博物館

東国文化の中心であった群馬の特色をアピールするとともに、改修により充実した展示室等を有効活用し、タイムリーなトピック展示や、平成31年度の開館40周年記念企画展などを実施します。また、子どもたちが群馬の歴史を学び未来を展望できるように、小中学校の歴史教育での利用促進を図ります。



自然史博物館

地球の誕生から現在まで約46億年の生命進化の歴史や本県の豊かな自然を実物大模型やジオラマ等で紹介しています。年3回の企画展を行うとともに、群馬県内自然史の調査研究を行い広く県民に公開します。また、各世代に応じた講座や観察会など各種教育普及事業や人材育成の充実にも取り組んでいきます。



土屋文明記念文学館

本県にゆかりのある文学者及び文学の魅力を県内外に発信する中核施設として、毎年4回の魅力ある企画展を実施するとともに、特別講座等の講座を開催します。また、「小学生の短歌教室」、「歌人が学校に！」など学校教育との連携を進めることで、未来を担う子どもたちに文学を学ぶ機会を提供していきます。



〔美術館・博物館の主な取組〕

- 民間企業との共催や全国巡回展の誘致も含めたメリハリのある魅力的な企画展の開催
- SNSやインターネット等を通じた、美術館・博物館情報の積極的なPR
- 教育普及事業の充実

目標・指標

(年間平均)

平成25年度～28年度 平成30～34年度
487,860人 ⇒ 540,000人

■ 美術館・博物館の入館者数

近代美術館：100,000人	館林美術館：55,000人	歴史博物館：100,000人
自然史博物館：250,000人	土屋文明記念文学館：35,000人	

群馬県民会館

県域的・広域的な文化事業、伝統芸能の継承や担い手の育成などの中核的な施設で、2,000席級の大ホール、充実した舞台設備を備えています。開館以来46年経過していることから、耐震対策と座席の改善など、県民目線での改修を進めます。(大規模改修工事を平成32年度～平成33年度に予定。)



県立図書館

県民の「さまざまな学び」を支援する図書館として、県民のニーズに対応した多分野にわたる資料の収集や発信力の強化、調査相談機能の充実に努めます。また、県内の読書環境を向上させるため、市町村立図書館や学校図書館を支援するとともに、子どもの読書活動の推進に向けた取組を進めていきます。



ぐんま昆虫の森

身近な昆虫との触れ合いを通じて、生命の大切さや自然環境への理解を深め、全国的にもユニークな体験型教育施設として、積極的に情報発信を行います。学校利用や団体利用を促進するとともに、幅広い利用者を対象として、自然観察会や昆虫ふれあいコーナーなどの魅力的なプログラムを展開していきます。



ぐんま天文台

天文学を通じて学校・地域と協働し、多様な学習機会を提供する教育施設として、150cmの大型望遠鏡や天体観察会等による「本物体験」の機会を提供します。また、天文学のすそ野拡大を図るため、学校利用や授業サポートによる学習支援や、一般向けの講演会などの取組を推進します。



日本絹の里

本県が誇る絹産業の歴史や技術などを伝える展示や、染色・手織り・繭クラフトなどの体験を通じて、蚕糸や絹文化に関する理解を深め、継承していきます。また、施設内のシルクショップで群馬の絹を使った絹製品を取りそろえ、蚕糸絹業関係者の交流の拠点となるとともに、その魅力の発信に取り組んでいきます。

